公益社団法人 新潟法人会

会報

NIIGATA HOUJINKAI KAIHOU

2026
vol.162

令和8年11月18日



新潟県立スポーツ公園

法人会は「企業の発展を支援し、地域の振興に寄与する経営者の団体」！

消費税期限内納付
法人会 一声運動

会員増強運動実施中

会員の皆様には、是非、1社につき新規会員1社獲得を目標に
あなたのお仲間企業を会員に！

新潟市中央区西堀通
3番町258番地24
新潟法人会
電話（223）−1242
FAX（225）−5699

役にたつホームページ

令和8年度

優良経理担当職員表彰式

【令和8年度】「優良経理担当職員表彰式」

令和8年10月14日にホテルイタリア軒3階サンマルコで、「令和8年度　優良経理担当職員表彰式」を開催いたしました。

新潟市内の会員企業から推薦された経理担当職員23名が表彰されました。当日は14名の受彰者と企業の役員や上司6名の皆様が出席され、新潟税務署長の二瓶克美氏を来賓にお迎えして、賞状と記念品の授与式が行われました。





受彰者を代表して、福田道路株式会社の淡路達哉課長が謝辞を読上げ、表彰式は閉会となりました。

表彰式後には、新潟税務署副署長の小池敏弘氏が、「査察事務について」と題して特別講演を行ってくださいました。その後受彰祝賀会が盛大に開催されました。

優良経理担当職員表彰式 受彰者名簿

令和８年度

法　人　名	氏　名
（株）壱番	齋藤希巳枝　様
（株）三幸	南部ひろみ　様
（株）三幸	石澤　良江　様
大協リース（株）	金田　里奈　様
新潟中央青果（株）	畑野沙緒里　様
（一財）にいがた住宅センター	大屋　　巧　様
（株）長陵エステート	本間美奈子　様
新潟ボンド工業（株）	野沢　広美　様
（株）富有社	牧野　早苗　様
福田道路（株）	淡路　達哉　様
福田道路（株）	小菅　昌史　様
福田道路（株）	松浦　康浩　様

法　人　名	氏　名
（株）フジ・クリエイティブセンター	土屋　綾子　様
プライムテック（株）	岩本　春美　様
丸運建設（株）	大田ゆかり　様
丸運建設（株）	加藤　　武　様
丸運建設（株）	坂爪　美緒　様
セキモト（株）	宮竹　美春　様
（株）佐久間組	阿部　紀子　様
（株）吉運堂	袖山　尚子　様
（株）角金商店	小林真理子　様
創明工業（株）	波田野留美　様
（株）ＮＫＳコーポレーション	兼松　恵美　様

※法人会員番号順に掲載させていただいております。

第15回（令和８年度）
税に関する絵はがきコンクール
受賞作品

新潟法人会では、15回目の開催となる「令和８年度税に関する絵はがきコンクール」を開催いたしました。
９月18日の締切りには、新潟市内の小学校19校から743件の作品の応募があり、公正な審査の結果、金賞、銀賞、銅賞、優秀賞、新潟税務署長賞、新潟市租税教育推進協議会長賞が決定しました。
小学生の皆さんが租税教室の授業を受けて、税について感じたことや考えたことを、絵はがきに明るく、楽しく表現してくださいました。次回もより多くの生徒さんの参加を希望しています。



〈銀賞〉　鳥屋野小学校
石井朱華さん



〈金賞〉　新飯田小学校
落合三蕾さん



〈銅賞〉　上山小学校
渡邉あかりさん



〈新潟税務署長賞〉
内野小学校　阿部ひよりさん



〈新潟税務署長賞〉
笹口小学校　松野仁香さん



〈新潟市租税教育推進協議会長賞〉
上山小学校　和田なのはさん

シリーズ 人にいがた発見

このシリーズは新潟発で活躍されている方々をご紹介いたします。

「一歩ずつ挑戦を重ね『ラート』でつかんだ世界一」

新潟市立紫竹山小学校 教諭 後藤 龍一さん



《プロフィール》
氏　名　後藤　龍一（ごとう　りゅういち）
新潟県新潟市出身。6歳から体操競技を始め、大学在学中にラート競技に出会う。2019年から本格的にラート競技を開始。現在は小学校教諭として勤務しながら競技活動を続け、ラート世界選手権 跳躍の部 3連覇を達成。

《主な経歴》
2019年　ラート競技を本格的に開始
2022年　新潟市立小学校教諭として勤務
　　世界選手権（デンマーク）跳躍の部 優勝
2023年　Team World Championships
　　団体 銅メダル
2024年　世界選手権（オランダ）跳躍の部 優勝
2025年　Team World Championships
　　団体 銅メダル
　　世界選手権（ドイツ）跳躍の部 優勝
　　世界初となる新技「後方伸身宙返り2回半ひねり」成功
2026年

――本日は、新潟市立紫竹山小学校の教諭として勤務する傍ら、「ラート」の世界大会で男子跳躍3連覇を果たした後藤龍一さんにお話を伺います。まず、ラートとはどのような競技なのでしょうか？

ラートは、ドイツ発祥のスポーツです。ドイツ語で「輪」という意味で、その名の通り2本の大きな輪を連結した器具を使います。輪の中に入って真っすぐ転がる「直転」、コインが回るように斜めに回転する「斜転」、転がしたラートに跳び上がり、そこから宙返りなどをする「跳躍」という種目があります。もともとは子ども用の遊具として生まれ、後にスポーツとして発展しました。日本では1990年代から本格的に広まり、現在の競技人口は200人ほど。まだまだなじみの薄いスポーツではありますね。

――どのように勝敗を競うのですか？

イメージとしてはフィギュアスケートや体操競技に近く、難しい技をどれだけ美しく見せられるかで採点されます。私が専門にしている跳躍では、転がっているラートに跳び乗り、上まで移動してから蹴り出して宙返りなどの技を行います。私のラートは直径230センチほどあるので、かなり高い位置から跳ぶことになります。



2025年全日本ラート競技選手権大会
提供：日本ラート協会／竹園　孝太郎

――とても迫力がありそうですが、そんなラートの魅力は？

日常生活では味わえない運動感覚があることですね。ラート自体が動くので、止まっている鉄棒や跳び箱とは違い、器具の動きに合わせて自分の体を操作しなければなりません。逆さまになったり、回転したり、「こんな動きができるんだ」と感じられる。見ても面白いですし、実際にやってみるとさらに楽しいスポーツだと思います。

――大学からラートを始められそうですが、それまでにも何か競技に取り組んでいたのですか？

6歳から体操競技を続けていて、小学校4年生の頃には週6日練習していました。当時はオリンピックの放送を見ながら、「自分もオリンピック選手になりたい」と思っていまし

たね。ところが中学3年の県大会直前に肘を骨折し、復帰まで1年半以上かかってしまって。それでもリハビリを続け、高校2年、3年では国体とインターハイに出場。床運動や跳馬のような跳ねる種目を得意としていましたが、全国の舞台では出場するのが精一杯でした。そこで、体操競技には一度区切りをつけ、新潟大学へ進学しました。

――そして、大学でラートに出合ったのですね。

大学で何か新しいことを始めたいと思っていた矢先、ラートの体験会に参加しました。実際にやってみたら、「なんだこれは、楽しいぞ」と(笑)。体操競技では経験したことのない感覚がありながら、これまでの技術も生かせそうだった。経験を糧に高みを目指せる競技だと感じました。

――世界を意識するようになったきっかけは？

大学時代、世界大会で優勝経験のある高橋靖彦選手が新潟に来てくださり、世界一になった際の映像を見せてもらったことです。「すごい！」と思う一方で、「自分にもできるかもしれない」と感じて。そこから世界チャンピオンを目指すようになりました。

――その後、着実に結果を残されていますね。

大学2年の時に学生の全国大会で優勝し、その冬の全日本選手権では男子跳躍で2位になりました。この時は悔しさもありつつ、「本当に世界への道が開けるかも」と手応えを感じました。

翌年は新型コロナウイルスの影響で大会に出られませんでしたが、大学4年の選考会で準優勝し、日本代表に選出。教員一年目の2022年、デンマークで開催された世界選手権に初出場しました。

――そして、初出場で世界一になったのですね。

私自身も驚きました。世界大会は、一つ技をするだけで体育館が揺れるような歓声が上がり、鐘や太鼓まで鳴る。観客席もいっぱいで、すごい場所に来たなと緊張が走りました。男子跳躍には各国代表約20人が出場し、決勝に進めるのは6人。私は「後方伸身宙返り跳び2回ひねり」という、後ろに1回宙返りする間に体を2回ひねる技で挑みました。当時、この最高難度の技を世界大会で行っていたのは3人だけです。

予選は3位通過だったので、まさか優勝できるとは思ってもいませんでした。「練習してきたことを出すだけ」と結果を意識しないようにしていたので。表彰式で2位の選手が呼ばれた時に、「あれ、自分が優勝なんだ」と驚きました。喜びよりも驚きが大きかったです。

――2024年のオランダ大会では、世界王者として臨むことになりますが。

私の中では「王座を守る」というより、2連覇に挑戦する選手という感覚でした。それまでより美しく、雄大な演技をして、さらに高い得点を出したいという気持ちです。その大会でも「後方伸身宙返り跳び2回ひねり」を高い完成度で決めることができ、2連覇を果たしました。

――その頃は、さらに新しい技にも挑んでいたそうですね。

1回目の世界大会後から、2回ひねりにさらに半分加える「後方伸身宙返り跳び2回半ひねり」に挑戦していました。これは、世界で誰も成功していない技でした。2024年大会には間に合いませんでしたが、その練習によって2回ひねりの完成度が高まり、2連覇につながったと思います。


2024年世界選手権（オランダ）での表彰台

――3連覇を懸けた2026年のドイツ大会で、その技に挑まれたのですか？

世界大会で新技を行うには、前年までに映像を提出して認定を受ける必要があります。まだ尻餅をつくような完成度でしたが動画を提出し、新技として認めてもらえました。

それでも、大会当日までに2回半ひねりをきれいに着地できたのは、たったの3回。「まだ誰もやったことのない技を、世界の舞台で成功させたい」という思いで挑みました。

――本番はいかがでしたか？

予選1本目は2回ひねり、2本目で2回半ひねりに挑戦しました。ラートから飛び出して、ひねって、着地した瞬間に立つことができ、審判にも技として認定されました。これまで誰も成功させていなかった技を世界大会で初めて決められたことがうれしくて、何度もガッツポーズをしました。周りの選手たちもスマートフォンを向けていましたね。

決勝では、ひねりが少し足りないと判定され、技としては認められませんでした。それでも、男子跳躍で優勝し、世界選手権3連覇を達成す


2026年世界選手権（ドイツ）

――現在は、小学校教諭として働きながら競技を続けられていますが教員を目指したきっかけは？

祖母が小学校教員だったことが大きいですね。私自身、子どもの頃は落ち着いて座って勉強するのが得意ではありませんでした。そんな私のために、祖母が手書きの計算プリントを作ってくれたんです。「これくらいならできそう」と思える絶妙な問題数で、終わると丸をつけて、花丸まで描いてくれて。大人になってからも、祖母の昔の教え子さんが家を訪ねてくる姿を見ていました。何十年たっても続く温かなつながりや、未来をつくっていく仕事に魅力を感じて、小学校6年生の頃から教員になりたいと思っていました。

――教員と競技を両立するのは大変ではありませんか？

平日は学校の仕事に集中し、週末、新潟大学の体育館が使える時間に練習しています。忙しくて練習できない時期はもちろんあります。でも、学校の仕事で行き詰まった時にラートがあることでリフレッシュできたり、反対に競技で悩んだ時には、学校生活や子どもたちからヒントやエネルギーをもらったりする。頑張れる場所が複数あることで、お互いが補い合っている感覚があります。

――学校でもラートを披露したり、体験会を開いたりしているそうですね。

競技を続けながら教員をしているからこそ、自分が好きなことを一生懸命突き詰めていく姿や、世界で経験してきたことを子どもたちに還元したいと思っています。

私は体操が好きだったからラートに出合い、ラートが好きだから世界まで行くことができました。「好きだ」「楽しい」と感じることは、子どもたちにとってすごく尊いことだと思います。それが将来、社会や世界へ踏み出していくエネルギーになるかもしれない。だから、子どもたちにも好きなことをたくさん見つけて、それを広げたり、深めたりしてほしいと思っています。

――最後に、これからの目標を教えてください。

競技者としては、次の世界選手権で4連覇すること。2回半ひねりをもっと自分のものにして、決勝の舞台できれいに成功させたいです。教員としては、夢を持つことや、好きなことを見つけて深めていく大切さを、自分自身が挑戦する姿を通して伝えていきたい。そして、ラートという競技そのものも、より多くの方に知ってほしいと思っています。

新潟にはまだ気軽に通えるラート教室がなく、器具も高価なので、体験できる場所は限られています。それでも、自分のできる範囲で体験会を開きながら、少しずつ競技の魅力を伝えていきたいです。

新潟で教員をしながら、世界に挑戦している選手がいる。そんな私の姿が、誰かの勇気や活力につながったらうれしいですね。これからも新潟に根を張りながら、世界への挑戦を続けていきたいと思っています。


世界選手権跳躍の部・3連覇の金メダル

――競技者として、教員として、新潟から世界へ挑み続ける後藤さん。さらなる飛躍を楽しみにしています。本日はありがとうございました。

跳躍は、動いているラートに跳び乗り、そこから蹴り出す競技です。少し体を倒しすぎればラートが前に滑り、真上に蹴りすぎれば、そのまま下に落ちてしまう。細かな体の使い方が求められます。

腕を上げる角度一つでも、その後の動きが変わります。新潟大学の檜皮（ひわ）貴子先生と動画を見ながら動きを分解し、研究してきました。練習時間が限られているからこそ、一つ一つの動きを大切に、大切に突き詰めていきました。

ることができました。悔しさもありましたが、それが今の目標になっています。次こそは決勝の舞台で2回半ひねりをきれいに成功させ、4連覇を達成したいです。

――3連覇の裏には、緻密な研究もあったのでしょうか？

いいね!! e-年調（イー ネン チョウ）

年末調整手続の電子化で業務の効率化

①年末調整手続の電子化とは？

2分で分かる！
年末調整の電子化！

電子化の概要 いいね!! e-年調
（1分56秒）

1. 年末調整に必要な控除証明書をデータ取得
2. 年末調整に関する申告書をデータ作成
3. データを利用して年税額を自動計算

②年末調整手続の電子化のメリット

勤務先（給与担当）	従業員（給与所得者）
① 関係書類の配付や回収が不要！	① 手書きでの書類作成が不要！
② 控除額や添付書類のチェックが簡単！	② 控除額はソフトが自動計算！
③ 会社のシステムへの手入力作業が不要！	③ テレワーク中の従業員も提出可能！
④ 書類の保管場所も不要！	④ マイナポータル連携を利用すれば、保険料等の控除証明書等をまとめて取得可能！

年末調整手続の電子化関係パンフレット等はこちら

③従業員による3ステップ



1．準 備
控除証明書等をデータで取得（※）

2．作 成
申告書をデータで作成

3．提 出
勤務先にデータで提出

※ 控除証明書等は、その控除証明書等の発行主体（保険会社等）から取得してください。
なお、マイナポータル連携を利用することで、控除証明書等のデータを一括取得できます。

マイナポータル連携を行うための事前準備については、こちらをご確認ください。

※ マイナポータル連携を利用するためには、マイナンバーカードが必要です。
マイナンバーカード及び電子証明書の有効期限にご注意ください。

マイナンバーカードの有効期限や更新手続等の詳細は、こちらをご確認ください。

～年末調整控除申告書作成用ソフトウェア（年調ソフト）について～

国税庁では、従業員が利用する「年末調整控除申告書作成用ソフトウェア」（年調ソフト）を無償で提供しています。
これまで、年調ソフトについては、スマホ版及びパソコン版を提供してきましたが、スマホ版の利用が増えてきていることなどを踏まえ、**令和9年分以降**はスマホ版のみの提供となります。
現在、パソコン版の年調ソフトをご利用の場合には、スマホ版への移行をお願いいたします。

年調ソフトはこちら

国税庁 法人番号7000012050002 R8.9

随想 夕やけこやけ

ゴルフ



堀川建設株式会社
代表取締役
堀川　吉明

私の趣味の一つにゴルフがあります。ゴルフ歴は30年で平均スコアは90台。80台で喜び１００を叩くと悔しくなり70台は未知の領域です。どうせやるなら楽しくやりたい、もっと上手くなりたい、あの人には負けたくない。最近はこんな気持ちでゴルフに励んでいます。よくゴルフで大事なのは「運動会」と言われています。「運」とは正しく「運」の事です。運を引き寄せるには利他の心でプレーすると幸運が訪れると言われ、逆に利己の心で行動をするとよい結果には結びつかないみたいです。「動」とは「道具」の事です。昔に比べたら道具の進化も進んでおり最新のクラブで自分に合ったクラブを選ぶと良いみたいです。また道具を大切に扱えばしっかりと仕事をしてくれますが雑に扱うと良い仕事はしてくれません。「会」は「回数」の事です。練習場では傾斜やプレッシャーもなく平らなところでボールを打てますがコースではそうはいきません。どんな場面でも理想のボールを打てるようにコースでの経験が必要です。

こう考えてみるとゴルフは人生に似ているように思えます。良い時も長く続きませんが悪い時も長くは続きません。「人生楽ありゃ苦もあるさ」水戸黄門？はよく言ったものです。ゴルフを通して多くの方と知り合うことが出来ました。とてもありがたいことで私の財産だと思っています。若い方も年配の方も皆さんゴルフに夢中です。年配の方を見ていると姿勢も良く若々しくゴルフを楽しんでいます。先日は中学校、高校の同級生とゴルフと反省会を楽しみました。一生涯出来るスポーツなので私もあと20年はプレーしたいと思っています。

編集後記

先日、アメリカの中間選挙が行われ、与党・共和党が上下両院ともに多数派を失う歴史的な結果となりました。この原稿を書いている十一月七日現在、その余波は為替や株価にも表れ、改めてアメリカの政治が世界経済に与える影響の大きさを感じます。

我々には一票の選挙権もない遠い国の政治の話なのですが、為替や原油、原材料の輸入価格などを通じて、私たちの暮らしや企業活動にも少なからず影響が及びます。

ただでさえ先行きを予測することは容易ではない上に、相手はトランプ大統領です。残りの二年間おとなしく…とも考えにくいので、まだまだトランプ劇場は続くのでしょうか。

広報委員　外山　洋史

特別講演会および年末懇親パーティーのご案内



■日　時
令和８年12月３日（木）
特別講演会　　午後２時30分～午後４時00分
年末懇親パーティー　　午後４時15分～午後５時30分

■会　場
ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
特別講演会　　３階「飛翔」
年末懇親パーティー　　２階「芙蓉」

■講　師
ジャーナリスト・元自民党幹事長
石原　伸晃 氏

テーマ
「世界情勢と日本再生への視点
地方経済はどう変わるのか」

参加費・お申し込み方法等詳細は事務局までお問い合わせください
☎　025（223）1242